

令和7年度・各教科等の授業改善推進プラン（小平第四中学校）

教科	生徒の実態や授業について	授業改善のための具体的な方策
国語	<p>【1年】 積極的に挙手や発言をする生徒が多く、活発な雰囲気 で授業に取り組んでいる。一方で、意見をもっている も発言につながらない生徒や、理解が追いついてい ない生徒も見られ、「分からない」ことを安心して表 出できる雰囲気づくりが必要。</p> <p>【2年】 積極的に発言や話し合いを行い、前向きに授業に取 組んでいる。他者の意見を聞くことを楽しんでいる 一方で、他者の意見に流されやすく、ワークシート を書き換えてしまう生徒も多い。他者の意見をその まま書き写すのではなく、自身の意見を改善するこ とが必要。</p> <p>【3年】 落ち着いた態度で授業に参加している。発問に対し てそれぞれよく考えているが、積極的に自ら挙手し て発言できる生徒は少ない。また、班での意見交流 を楽しみにしている生徒は多いが、話し合いについ ていけない生徒も一定数いる。意見交流の際に、で きる生徒の意見をそのまま採用してしまう様子も見 られる。</p>	<p>【1年】 各単元での目標を授業のはじめに示し、学習の見 とおしをもたせる。また、既習事項を振り返りなが ら学習を進めるとともに、個々の理解度に合わせた 個別のアドバイスや、発問の工夫を重ねていく。</p> <p>【2年】 ワークシートに自身の意見を書く欄と、話し合った 内容を書く欄を作るなど、自身の学習の記録が残 る形にワークシートを工夫する。また、自身の意見 に立ち返り、改善することが学習につながることを 意識させる。</p> <p>【3年】 授業で班活動をする際に、生徒の実態に応じた発 問を心がける。適切な時間設定をし、それぞれが 意見を発表できるようワークシートを工夫する。受 験に向けて、初見の文章でも内容読解ができるよ う、時間を区切った問題演習を繰り返す。</p>
社会	<p>【1年】 基本的な知識・理解の定着に課題があり、学習習 慣が身についていない生徒も多い。一方で、グル ープで考えたり、班で意見をまとめたり、教科書 の内容をプリントにまとめたりする意欲は高い。全 体として社会に対する苦手意識より、家庭学習 を進めるまでのハードルが高いようである。</p> <p>【2年】 課題設定や課題に対する表現は主体的に取り組 めるようになった。定期考査の平均点は70点 を超え、学習意欲や興味関心が高い生徒が多い。</p> <p>【3年】 社会的事象に対する関心も高く、協働的な作業 にも意欲的に取り組むことができている。学習意 欲を高く保っているが、既習分野の振り返りは 時間をかける必要がある。思考力・判断力・表 現力を高めたいと思う生徒が多い。</p>	<p>【1年】 生徒の興味・関心を引き出しながらも、ワーク ブックやスタディサプリを活用し、家庭学習 につなげ、基本的な知識・理解を定着させたい。 また授業内容を精選し、教科書やプリントで学 習した内容を反復する習慣も身に付けさせたい。</p> <p>【2年】 発問の工夫や効果的なICTの活用方法を探 っていく。</p> <p>【3年】 3年次の社会科は、地理的分野・歴史的分野・ 公民的分野をトータルして総合的な問題に取 り組むことが求められる。そのために、各分 野の社会的事象を相互に関連させ、相違点 や共通点に気づくこと、空間的な広がりや 時間軸に沿った考え方を活用する問題へ の経験値を高める工夫を行う。</p>

数 学	<p>【1年】 ◇落ち着いた雰囲気、発言も活発である。話し合い活動にも積極的に取り組む生徒が多く、生徒アンケートからも楽しく授業を受けられている様子である。一方で、生徒によっては基本的な知識の習得が不十分な傾向が見られる。</p> <p>【2年】 少人数授業を展開し、2つのコース分け（チャレンジコース、じっくりコース）をしている。進度や提出物等はコースによらず統一しているが、演習量や深い学びに取り組ませる時間で差をつけている。落ち着いた授業を受けており、話し合い活動に積極的に取り組む場面が昨年度よりも多く見られた。また、授業評価では、めあてや振り返りの活動に関して肯定的な意見が平均して95%あり、見通しをもって授業に取り組んでいる。しかし、「調べたり、発表したりする時間がある」に否定的な回答をした生徒が平均して10%程度あり、表現する活動時間が不足していることが課題として見えた。</p> <p>【3年】 全国学力調査では、ほとんどの領域で都や全国平均と比べて、高い数値である。図形や関数の領域でその傾向が顕著である。しかしながら知識・技能については都の正答率を下回った。 少人数授業を展開し、2つのコース分け（チャレンジコース、じっくりコース）をしている。</p>	<p>【1年】 1年次では単級で授業を行える利点を生かし、生徒同士で学び合ったり教え合ったりといった活動を増やし、共同的な学びを拡充していく。 また、ICTを有効に活用したり、演習時間を十分に確保したりしながら、生徒の力をつけていく。</p> <p>【2年】 生徒が発言する機会を増やしたり、発表をしあう場面を増やしていく。特に数学的な見方・考え方を育む場面では積極的にICTを活用しながら、自分の考えを説明する力を身に付けさせる。</p> <p>【3年】 習熟度別少人数授業の形態を生かし、生徒の習熟状況に応じたステップで学習できるよう指導する。 学習してから時間がたち、あまり利用しない用語などを忘れてしまうと思われる結果が出ているので、定期的に履修事項の確認をしていく。 理由を説明する問題の回答率が低かった。説明を考える機会を増やし、考えさせたことをきちんと言葉に表し書くことの練習およびそれを発表する場面を増やしていく。</p>
--------	--	---

理 科	<p>【1年】 ◇観察・実験に対して関心が高く進んで作業に取り組む生徒が多い。一方で教室での実験結果について考察したり、知識として定着させる活動では飽きてしまう生徒が見受けられる。</p> <p>【2年】 ◇科学に対する興味・関心は全体的に高く、積極的に実験や観察に取り組んでいる。発言は多いものの、特定の生徒に限られてきている。また、結果から分かることをまとめる考察の内容が充実している生徒は少ない。ノートの書き方についても、上手にまとめられている生徒と、そうでない生徒の差が大きい。</p> <p>【3年】 ◇科学に対する興味・関心は全体的に高く、積極的に授業に参加し、実験に取り組んでいる。一方、実験結果から考察を述べたり、事象を多面的にとらえ表現したりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。ノートに各自で主体的にまとめる自主学習のページが、生徒によって差が大きいものの、全体的に充実してきている。</p>	<p>【1年】 ◇様々な観察・実験を取り入れて生徒にたくさん考えさせる材料をつくっていく。実験のまとめの時間をとるために、各班活動で準備や片づけを分担するよう、より一層スムーズにできるよう指導の工夫を行う。実験レポート作成では、考察が苦手な生徒に対して、“自分の考えを級友と交換してブラッシュアップさせること”を勧める。</p> <p>【2年】 ◇毎時の目的に対するまとめについて、書くことは定着してきているので、時間を確保してそれを発表させていくようにする。実験・観察については、準備や片づけを工夫して、時間内に班でまとめの話し合いができるようにしていく。そして、「みんなで話し合っまとめて」「段階を追ってまとめられるような記入式のプリントを作成してまとめる」「結果からわかることを自分だけの力でまとめる」のように段階を得て身につけられるようにしていく。</p> <p>【3年】 ◇実験・観察は、全員が役割をもって取り組めるように工夫すると共に、学習者用端末で写真、動画を記録し、班ごとに行った実験をクラス全員で共有するなど、ふり返りも行える手段を充実させる。グループで議論する時間を確保し、自分の言葉で表現したり、説明する力を育む。</p>
英 語	<p>【1年】 英語を学ぶことに対し意欲的な生徒は多い。帯活動ではICTを活用し、適宜学習の定着を確認している。また、日々、ペアや4人組によるコミュニケーション活動に取り組み、仲間と助け合いつつ使って学ぶ活動に取り組んでいる。英単語を覚えること、書くことに対しては苦手意識をもった生徒が多い。楽しみつつ書く活動や、音読を通して教科書の英文を定着させていく必要がある。</p> <p>【2年】 英語を学ぶことに対し意欲的な生徒が多く、歌や音読、暗唱などの活動に積極的に取り組んでいる。ペア活動を通して、お互いに助け合いながらコミュニケーションの中で英語を学ぶことができていく。構成を意識し、書くことに対する抵抗やミスがある生徒が多く、多くの英文を書きながら少しずつ使用できる表現を増やしている。</p> <p>【3年】 意欲的に学習に取り組む生徒が多い。読んだり話したりする際の英語の発音やイントネーションに対する意識が低下している。既習語彙・表現の知識の定着度が例年よりも低い。今後は既習事項の定着を図りながら、まとまった文量の英文を読み、内容を理解する力を高めていく必要がある。</p>	<p>【1年】 ICTによる英単語・文法・英文の定着確認の取組や音読の録音による提出活動を継続していく。また、1学期半ばより取り組み始めた学習中の文法表現・単語を含むペア活動も継続させ、教科書の英文を日々発話することで覚えられるようにする。二学期以降はスピーチ等の発表原稿を書き、暗唱する活動にも取り組んでいく。</p> <p>【2年】 授業ではペア活動を多く取り入れコミュニケーションを主体的にするよう促している。また、歌や音読等の様々な形式のライティングを通して、文章の構成を意識した英文を書く。</p> <p>【3年】 授業における帯学習を通して、発音・イントネーションについてこだわって指導を行う。また、1、2年生の教科書を使いながら、既習事項の復習を繰り返す。さらに、読解力を高めるための帯学習を1年間通じて行うことで、読む力を高めていく。</p>
音 楽	<p>【1年】 音楽が得意か不得意に関わらず、意欲的に意見発表や意見交流をする生徒が多く、活発な雰囲気の中で授業に取り組んでいる。しかし、発言力が弱い生徒や、理解が追いついていない生徒も見受けられるので、間違えていても安心して情報や意見交流のできる雰囲気づくりが必要。音楽科の学力は、基本的な楽典的知識の理解や基本的な技能の習得が低い。</p> <p>【2年】 【3年】 多くの生徒は、与えられた課題や活動に意欲的・真面目に取り組んでいる。教師からの支援が必要な生徒もいるので助言や活動例を提示しながら学習している。直ぐに1つの解答を求めたり、教科の特性上、意見や解答が無数にある発問になると考え込んでしまう傾向が多い。個別学習には慣れていないが、グループワークや少人数活動には不慣れな傾向にある。</p>	<p>【1年】 間違えていてもめあてと違う意見であっても、発言や発表できることが良いことであることに価値つけた学習スタイルに改善していく。短時間の常時活動を工夫して取り入れながら基礎知識・基礎技能の定着を図っていく。</p> <p>【2年】 【3年】 各題材を通して「音楽的な見方・考え方」の育成に力を注いだ授業改善を図る。ICT機器の効果的な使用についても、生徒の実態に応じた提示方法や提示内容等の改善を図る。</p>

美術	<p>【1年】 ◇落ち着いた雰囲気、発言も活発である。実技課題にも積極的に取り組む生徒が多く、楽しく授業を受けている。一方で、基本的な知識・技能の習得・制作意欲に差が見られる。</p> <p>【2年】 ◇班活動での授業準備、片付けなど協力して行える。1年時に比べ発言への意欲が低くなっている。実技課題では基礎的な技能に差があるため、個別指導が必要。計画的に制作に取り組む意識をもたせたい。</p> <p>【3年】 ◇与えられた課題に真面目に取り組む姿勢がみられる。主体的に課題を見出し、表現に必要な技能を工夫することなどに対しては消極的な面がある。少しずつではあるが、作品の制作を通して自らの考えをワークシートへの記述で表現できるようになってきた。</p>	<p>【1年】 ◆進度に合わせた課題、基礎的な知識を確認できる掲示物を準備することで個々への対応ができるようにする。グループワークで話し合い活動、発言、発表の機会を増やす。</p> <p>【2年】 ◆実技の技能に差があるので、個別指導のための学習補助員の協力を得ることが必要。何を表現したいのか、何を学ぶのかを意識させるため、各自の毎時間の制作目標を授業のはじめに確認させる。グループワークで話し合い活動、発言、発表の機会を増やす。</p> <p>【3年】 ◆自分の主題を設定し、何を表現したいのか、何を学ぶのかを意識させたい。基礎的な技能の習得と主題からテーマを見だし、視野を広げるような資料の準備をする。話し合い活動、発言、発表の機会を作る必要がある。</p>
保健体育	<p>【1年】 運動の得意・不得意に関わらず、授業に対して前向きに取り組める生徒は多い。一方で、互いに教え合うなど、集団で高め合う意識が希薄である。</p> <p>【2年】 運動に対する意欲が高く、学び合いや教え合いがよくできる。また、課題を設定して、その解決に向けて考えて取り組もうとする姿勢はある。一方で、自発的な取組に課題がある。</p> <p>【3年】 体力の向上に向けて、自ら目的意識をもって主体的に運動に取り組むことができる。また、教え合いや学び合いも積極的に行う姿勢がある。一方で、集団の中で自分の意見を伝えること、授業の雰囲気づくりをより良いものにしようとする姿勢に課題がある。</p>	<p>【1年】 小集団での活動を増やし、学び合いを積極的に行えるようにする。技能のポイントを明確にし、教え合いしやすい環境を整える。</p> <p>【2年】 課題を解決するために、学び合いや教え合いはよくできるため、その環境は継続して設定していく。その中で、自らの考えを他者に伝えてより深められるよう、ICT機器を活用するなど、コミュニケーションを充実させる。</p> <p>【3年】 小グループでの活動を主にして、集団で運動したり意見交換したりすることが必然になるようにする。また、良い雰囲気が体力や運動能力の向上につながることを実感できるよう授業内容を工夫し、主体的に良い雰囲気をつくっていきける環境を整備する。</p>
技術・家庭科	<p>【1年】 実習など意欲的に取り組んでいる。課題では、感想だけで終わるのではなく、自分の生活にどのようにいかしていくのかを考えさせながら進めて行く必要がある。自分の意見を文章で書くことが苦手な生徒も多いため支援が必要である。</p> <p>【2年】 意欲的に作業に取り組む生徒が多い。一斉指導では、理解しにくい生徒には個別指導が必要である。</p> <p>【3年】 意欲的に授業に取り組んでいる。課題など自分の生活と関連させながら丁寧に考察する力を高めていく必要がある。自分で考えて計画を行う作業では、作業進捗の差が大きい。</p>	<p>【1年】 グループワークを通して、自分の考えを述べ友達の意見を聞くことで考えを深められるようにする。ワークシートでは、できるだけ具体的に考えを述べられるように声掛けや記述内容の補助的なアドバイスを行う。</p> <p>【2年】 授業の達成目標や流れを明確に提示し、動画やワークシートなど調べる手段を事前に伝える。早く進んでいる生徒が教え合うなどの場を作る。</p> <p>【3年】 グループでの意見交換の場を増やす。計画では、模範となる生徒の作品を紹介するなど、目的を明確にして課題に取り組めるように支援する。</p>
道徳	<p>生徒の実態や授業について</p>	
	<p>◇各学年、生徒の実態に応じた授業ができています。授業の雰囲気づくり、ワークシートや発問の工夫、話し合い活動、役割演技など、多様な意見が出るような指導の工夫を教員の共通理解として進めている。生徒たちの道徳の授業に対する向き合い方、取り組み方も徐々に高まり、自らの生き方を考え、物事の見方を深めることができている。その一方で、道徳の取り組みに対する興味・関心には生徒の個人差があり、発言する生徒が限定的になってしまう傾向にあることが課題である。</p>	<p>◇自分の考えや意見を表現する場面の工夫が必要と考え、ロイロノートなどICTの活用、話し合い活動の充実を通して、一人一人が考えたことを発表したり、小グループでの他者との意見交流や共有したりする場面を設定する。引き続き、学年内でローテーション道徳を実施し、組織的な道徳教育の推進を図る。</p>